

【屢々忿毒を起して 忍辱ならず】
カーツ、といかりがおこつてきて、我慢するといふことができない、
といふのみです。

【多く懈怠を生じて 精進なはず】
自堕落なところがおこつてきて、一所けんめい励もうといふこ
ころが消しとんでしまふ、といふ意味です。

【心意 散乱して 坐禪せず】
「心意」といふのは、こころです。こころが、あつちこつちと
ゆれ動いてしまつて、ちつとも定まりませんから、坐禪のこころ
が落ちつかない、といふことです。

【実相に 違背して 慧を修せず】

「実相」といふのは、真実、と考へてもらへない、とおもひま
す。仏教がいう真実の世界に自分自信を照らしていない、よそ
を向いている、と言ふ意味です。真実の世界に到達していませんから、
自分のなかに正しい智慧が確認されていない、と言つことなのです。

【恒に 是の如くの六度の行を退して】

「六度」といふのは、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧の六波羅蜜の
ことです。「度」といふのは、「救われる」とか、「救つ」と言ふ意味です。
救いのための六つの教えのことです。
「退して」と言ふのは他人のため、あるいは自分自身において、
大乘仏教の修行徳目である、六波羅蜜の行をしない、と言ふ意味です。

【還て 流転二途の業を作る】

かえつて二途に流転する、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天と
いふ六道に輪廻する原因をつくつていく、といふことです。
私たちは、「人間」として生まれ、仏教徒として生まれて刻苦・
努力するのは、さとりを得るため、ほとけになるためです。

そのために、このような行をするわけです。私たちの目的は
一手にそこにあります。ですけれども、かえつて、そうでない、
べつな方面にむかつて無我夢中になつていく人間の現実のありかたを、
ここで鋭くついているわけです。

(その次は、私たち僧侶の話なのです。)

【名を比丘に仮つて 伽藍を穢し】

正しい修行がおこなわれていないで、ただ僧侶の名をかたつて
お寺(伽藍)をけがしてはならないか、といふことです。
これは無言行に徹底された管鍵上人が、僧侶たちに言い放つたす
る、といふ言葉です。

【形を沙門に比して 信施を受く】

「形を沙門に比して」といふのは、かたちだけは僧形をして、こ
信徒からお布施をいただいているが、これは、どういふことだ、
と言つことなのです。

この辺は、我々僧侶が大いに反省をし、この言葉に負けないだけの
世界を自分の中にもつていかなければいけない、と言ふ風にもなります。

【受くる所の戒品は 忘れて持せず】

「戒品」といふのは、戒めの項目のことです。不殺生、不偷盜、不邪淫、
不妄語、不綺語、不悪口、不両舌、不憍貪、不瞋恚、不邪見といふのは、
十善戒といわれるものです。
真言宗では、十善戒がいちばん中心になるわけです。
僧侶も、この十善戒をはずすわけにはいきませんけれども、こつこつ戒めを
自分の生活のなかに忘れてしまつていく、といふ指摘です。

【学す可き律儀は 廢して好むこと無し】

「学す可き律儀」と言ふのは、戒のいましめの条目とか、教えの内容のことだ、
それを学ばなければならぬのに勉強していかない、と言ふ意味です。

【諸仏の厭悪したもう所を慚しず 菩薩の苦惱する所を畏れず】
全ての仏様が忌み嫌うところをおこなっているのに、
ちっとも自分は反省していない、菩薩が苦惱なさっているところを、
ちっとも考えないで、慚しずにおこなっている、そういう現業である、
と言っています。

【遊戯し笑語して 徒に年を送り】
このころのおもむくままにふるまふ、あるいは、笑い、しゃべっ
て、むだに歳をとっている、と言っています。

【詭証詐偽して 空しく日を過ぐ】
人の悪口を言ったり、言葉弄して相手を混乱させたり、
嘘をついたり、そういうことをやっつて空しく日々を送っている、
と言っています。

【善友に随わずして 癡人に親しみ】
本当の友達と親しくならなくて、かえって、そうでない悪い友達に
なれ親しんでいる、と言っています。

【善根を勤めずして 悪行を営む】
自分の中に悪き行をおこなうことの、このころを捨ててしまつて、
悪い行を日々してかしている、と言っています。

【利養を得んと欲しては 自徳を謗し】
自分の利益のために、自分のすぐれていることを他人に宣伝をしている
と言っています。

【勝徳の者を見ては 嫉妬を懐く】
徳のすぐれた者を見ては、なんだ、あいつは、と嫉妬の心を
おこしているのが、私たちの日常の生活の現状ではないでしょうか。

【卑賤の人を見ては 僣慢を生じ】
いわゆる、"信心の徳の少ない"、人たちをみては、"愚かしい"と思つ。
"僣慢を生じ"と言つのは、その態度が、大変不遜である、
と言っています。

【富饒の所を聞いては 希望を起す】
いわゆる、"お金儲けに心がうばわれ、金持ちになつてくる心が
強くなる"ことです。

【貧乏の類を聞いては 常に厭離す】
汚く、くだびれ、困窮したひとをみて、"いやだな" と言つて気持ちを
いだけ、と言っています。

【故らに殺し 誤つて殺す有情の命】
私たちは、故意に悪事を働いたり、あるいは、誤つて生き物の、"いのち
をとつたりしている"、と言っています。

【願わに取リ 密かに取る他人の財】
他人の財を直接的に、あるいは間接的に盗んでしまつ、と言っています。
【触れても触れずしても犯す 非梵の行】
肉体的、あるいは精神的におこなつた不当なる性行為のことです。

【四意二 互いに相續して】
十善戒というのは、

- ① 不殺生・生きものを殺さぬ。
- ② 不偷盗・盗まぬ。
- ③ 不邪淫・邪な性行為をしない。
- ④ 不妄語・いつわりをいわぬ。
- ⑤ 不綺語・ことばをかなざり立てて、真実にそむかぬ。

- ⑥ 不悪口・悪口をいわない。
- ⑦ 不両舌・二枚舌をつかって他人をまじわせない。
- ⑧ 不慳貪・むさぼりない。
- ⑨ 不瞋恚・いからない。
- ⑩ 不邪見・邪（よこしま）な見方をしない。

その反対の行為が、

- ①の殺生、②の偷盜、③の邪淫・身（からだ）でおぼろぎ三つ
- の悪い行為、身二（しんざん）であつ、
- ④の妄語、⑤の綺語、⑥の悪口、⑦の両舌・口（くち）でけつて行なつ
- 四つの悪い行為、口四（くし）であるよすなま
- ⑧の慳貪、⑨の瞋恚、⑩の邪見・音（おん）でけつて行ひ三つ
- の悪い行為、意二（いざん）である。
- と言ひ様（よ）類別（べつ）できます。そのことを「口四意三」と言ひた
- たのです。
- それが「互いに相續して」と言ひのは、そのような悪（あく）しき
- 行為が、限りなく続いていることです。

【仏を観念する時は攀縁を発し、経を誦誦する時は文句を錯る】

仏様を静かに観想・思念（しんねん）してしまつて、なかなか落ちつかないで、妄（まが）に悪いことが頭におこつてきます。ですから、落ちつかないので、お経を誦誦（じゆんじゆん）することがあつても、読み間違えてしまつ、という意味です。

【若し善根を作せば、有相に住じ】

もし、良い行いをしたとしても、私は今、良い行いを行つて

いるのだよ、と言ひつことを、第三者に知らせるやうな、ひんまを

をする、と言ひ指摘（しやくさく）です。

自分のなしている行為を、自分だけの行為のなかにとらめおくわけです。

そして自分の修行とするのです。

自分の修行をほかのひとに知らせる、と言ひつことは、

本當の修行とはいえません。

さも、いま、こうやってるやうな、と言ひつは

「善根を作せば、有相に住じ」と言ひつことの意味なのです。

そう言ひつことも中には、私の、あるいは、私が、と言ひつ

おもいが介在（かいざい）しているからです。つまり、ただ、私（わたし）

がある、と言ひつのです。

【還て、輪廻生死の因と成る】

「私の、私（わたし）が、と言ひつおもい、そのうきもちを宿した行い

と言ひつものは、修行（しゆぎん）と言ひつよりは、かえつて輪廻（りんね）・生死（しんじ）の原因と

なつてしまいます。

【行住坐臥、知ると知らざるを、犯す所の是の如くの無量の罪】

「行住坐臥」と言ひつのは、私たちの日常生活のことです。

私たちのふるまいは、行（ぎん）「歩くこと」、住（ぢゆう）「たままること」、坐（ざ）

「すわること」、臥（ふし）「寝ること」のいずれかをとつて行なつて

その様な日常の生活の中で、意識（いし）してか、意識（いし）しないでか、色々な罪業（ざいごふ）

無量の罪（ざい）を、かしてしまつていきます。

【今三宝に対して皆を発露したてまつる】

この事を、私は仏・法・僧の三宝（さんぼう）について、しみじみ懺悔（ざんげ）を告白（こくはつ）しています。

【慈念哀愍して、消除せしめたまへん】
どうして仏様よ、私の発露懺悔の“心”を受け取って頂いて
私がつけている罪を消し除いてください。と言ふ意味です。

【皆な、悉く発露し、尽く懺悔したてまつる】
ここであらためて、このように自分の“心”を、まきれもなく
仏様のみまえに発露し懺悔いたしました。と言ふ意味です。

【乃至、法界の諸の衆生、二業所作の是のごとくへの罪】
私だけでなく、この世に生きてゐるすべての衆生が、身・口・意の二業に
わたつて行くこの数かぎりない罪といふものを。

【我皆な相代わつて、尽く懺悔したてまつる】
どうぞ、私は、今私の信念の上で、私も含めて、全ての人々にかわつて
ここに深く懺悔いたします。と言ふ意味です。

(次は、一番最後の言葉です。)

【更に亦、其の報いを受け令めされ】
こういう懺悔の行爲をしたと言ふことで、そこにもし、むくい
があつたとしても、その“むくい”を、私は受けませんと言ふ
意味です。